

民 生 教 育 委 員 会 会 議 録

招 集

令和8年5月14日（木）午前10時 議会委員会室

出席委員（8名）

（委員長）松 田 真 哉 （副委員長）門 脇 一 男

伊 藤 ひろえ 岡 田 啓 介 又 野 史 朗 矢 田 貝 香 織

吉 岡 古 都 渡 辺 穰 爾

欠席委員（0名）

説明のため出席した者

【こども総本部】塚田部長 金川次長

[こども政策課] 永榮課長

[こども施設課] 矢野次長兼課長 榊本子育て施設担当課長補佐

山田子育て施設担当主任

出席した事務局職員

毛利局長 田村次長 田渕議事調査担当係長 松田調整官

傍 聴 者

田村議員 徳田議員 戸田議員 塚田議員 西野議員

報道関係者1人 一般1人

報告案件

- ・児童文化センター共創施設整備事業（第1回ワークショップ）について [こども総本部]

~~~~~

### 午前10時00分 開会

○松田委員長 ただいまから民生教育委員会を開会します。

本日は、執行部から1件の報告がございます。

児童文化センター共創施設整備事業（第1回ワークショップ）について、当局の説明を求めます。

矢野こども総本部次長

○矢野こども総本部次長兼こども施設課長 児童文化センター共創施設整備事業（第1回ワークショップ）についてご報告させていただきます。資料の冒頭に記載しておりますとおり、児童文化センターにつきましては鳥取大学の体育館機能との共創施設整備に向けまして、現在、構想の検討、協議を進めているところでございます。この度、センターのリニューアルにあたり、全2回を予定しておりますワークショップの第1回目を実施いたしましたので、その結果をご報告させていただきます。

まず、資料の1、概要でございます。実施しました日時、場所につきましては、記載のとおりでございます。当日は小・中学生3名を含む10名の皆様にご参加いただきました。内容につきましては、科学や文化を楽しく学べる場所、いつでも遊べる居場所といったことをテーマとして、参加者同士が未来のセンターに対する意見を出し合い、意見交換

を行いました。プログラムは、事業の概要説明やアイスブレイクから始まり、ワールドカフェ形式でのグループワーク、各グループワークの発表などを経まして、最後に「私にとってセンターとは」というテーマで参加者それぞれにまとめていただいたところです。

次に、参加者からの意見でございます。ワークショップでは参加者の皆様から様々な御意見が寄せられました。その意見をお手元の資料にございますとおり、「施設に期待すること」と「求める機能」の大きく2つの視点に分類して記載しております。施設に期待することといたしましては、わくわくする場所、それから、家や学校でできないことを体験できる場所などといった御意見をいただいております。一方で、求める機能といたしましては、プラネタリウムや電子顕微鏡等による科学体験、図書室での読書、昔遊びや自然体験といった多様な遊びのほか、体育館でのバドミントンやボール遊びなどといった御意見が出されました。3番のその他でございますが、第2回のワークショップにつきまして、6月14日、日曜日になりますが、午前10時から同じく児童文化センター多目的ホールにて開催したいと考えております。そこでは、第1回で出されました様々な意見やアイデアを踏まえまして、さらに具体的なアイデアを生み出すワークを実施する予定でございます。ちなみに、第1回不参加の方でも第2回からの御参加、そういった形でも可能としております。

また、ワークショップ以外の手法による意見聴取についても考えておりまして、広く市民や関係者の皆様から御意見を伺うために電子申請によるアンケートフォームを5月中旬から6月頃にかけて開設することに加えまして、より専門性のある御意見を伺うため、米子市児童文化センター運営委員会の臨時会も開催する予定としております。最後となりますが、今後のスケジュールといたしましては、本年7月に基本構想を策定し、翌年の令和9年1月には基本計画の策定を進めていく予定でございます。報告は以上でございます。

**○松田委員長** 当局の説明は終わりました。

委員の皆様からの質疑、ご意見を求めます。

矢田貝委員。

**○矢田貝委員** まずですね、整備における構想を検討、協議しているという中の1つが今回の御報告をいただいたワークショップということです。その他以外に意見聴取の方法として書いてありますけれども、これ以外には考えていらっしゃることはありませんかということと、7月に基本構想を策定していくスケジュール感を持っていらっしゃると思いますが、当局の中での現在の議論のご様子をお伺いしたいと思います。

**○松田委員長** 矢野こども総本部次長。

**○矢野こども総本部次長兼こども施設課長** まず1点目のご質問につきましては、これ以外につきましては、文化財団さんとも協議をしているところなのですが、夏休みの学習課題と言いますか、そういったところで意見聴取ができないかどうかということ、今内部で検討しているところです。

それから、2つ目の御質問の現在の協議の状況でございますが、2月の閉会中の民生教育委員会で御報告させていただいた後、3月と4月に鳥大との協議を行っております。その協議につきましては、内容は現状の報告ですとか、今後の協議事項の確認、目合わせ、そういったものを行ったところにして、本格的な議論はこれからでございます。その議論にあたりましては、今回のワークショップでいただいた意見を踏まえ、また、第2回のワ

ークショップ後の協議につきましても、ワークショップでいただいた意見を踏まえて鳥大さんとは協議を展開していきたいと考えているところです。以上でございます。

○**松田委員長** 矢田貝委員。

○**矢田貝委員** 申し訳なかったことに1回目も行けなくて、2回目も行けない予定なんですけれども。10名出席されたというところ、夏休みで意見聴取も検討中ということですが、本当にこれで市民の方の意見が受け止められたとお考えになるんでしょうかということ。どうでしょうか。

○**松田委員長** 矢野こども総本部次長。

○**矢野こども総本部次長兼こども施設課長** ワークショップだけでは全ての方というか、大勢の方の意見を受け止められるという具合には考えておりませんで、その補完的なところとして、資料に記載させていただいておりますアンケートフォームの開設ですとか、そういったことを有効に活用して意見聴取ができればと考えております。

○**松田委員長** 矢田貝委員。

○**矢田貝委員** 児童文化センターが今持っている機能というところが、参加者からの意見でもよく分かるように、対象が幅広くて、米子市としては子育て支援センターの並びとしても捉えていらっしゃるというふうに私は受け止めています。その理由としては、土曜日開設に向かう中の、開設した児童文化センターの振替休日の曜日を工夫していらっしゃるよね、曜日ごとに。その中の1つに、日曜日が開く子育て支援センターっていうのは米子市には現在ないわけです。そこで、児童文化センターがあるじゃないかっていう位置づけでもあるから、土曜日までというか、本当は日曜日も子育て支援センターは開いていくべきだと思いますし、その分、人が確保できれば振替休日をつくるべきではないということなんですけれども、そういったいろんなことを考えた時に、今後、議論の中にこの共創施設として子供のための施設に何を残していったらいいか、新たなところでどういうふうに展開をしていく、新しい米子市としての子供のための、子育てする親のための求める機能とか、本当にわくわくするような体験であるとか、いろんなところをどう整理していくのかっていうようなことがですね、私たち議員のところにも、報告を今日はいただけるタイミングではなかったらどうかというふうに期待してたんですけど、3月、4月と鳥大と協議をされているということですので、次の委員会では基本構想策定までに、米子市として鳥大と協議するまでに、どんな構想を米子市としてまとめて協議に向かっているのかお示しいただきたいと思うんですけれども、今の課長の答弁以外には、鳥大との協議の内容っていうのは、詳しく出ませんか。

○**松田委員長** 矢野こども総本部次長。

○**矢野こども総本部次長兼こども施設課長** 現状といたしましては、先ほど申し上げたことが全てですので、これ以上の答弁は、今できない状況です。

○**松田委員長** 矢田貝委員。

○**矢田貝委員** 分かりました。子供のための施設といってもですね、しっかり世代を超えて、また体験するということで、この間の連休の時に行ってみました。児童文化センター。後ろのプレーパークのところは、ロープがかかっています、どうぞご自由にの雰囲気ではなくて、小さいお子さんは危ないですから入らないでくださいねっていうオーラが出ておりましたし、実際に暑い気温の中で思いっきり外で遊べる場所がどこまで、炎天下の中

で確保できるのかということ、大きな屋根があって、施設内でも砂であるとか、いろんな体験型の活動ができる施設っていうのも全国を見ればできているところですので、広い視点で鳥大との共創っていうところの部分に何を残して、それ以外のところにどのように市として展開をしていくのかっていうのは、ぜひとも具体的に示した上で児童文化センターの協議を進めていただきたいというふうに思います。意見です。以上です。

○松田委員長 渡辺委員。

○渡辺委員 ちょっとお聞きしたいんですけど、この10名の参加者っていうのは、校区で言うとどの校区の方だったのかということと、分かれば、児童文化センターを利用している子供さんがどのような校区の方がたくさん来ているのかっていうのをお聞きしたい。

○松田委員長 矢野こども総本部次長。

○矢野こども総本部次長兼こども施設課長 当日の参加者の方の今の住まいの校区は、申し訳ございません、把握しておりません。それから、日頃から児童文化センターを使っていらっしゃる子供さんたちの校区ですけれども、聞き及んでるところでは児童文化センター周辺の校区の子供たちが多いという具合に聞いております。以上でございます。

○松田委員長 渡辺委員。

○渡辺委員 これから鳥大とも協調しながらですね、充実していくと。で、特に児童文化センターっていう施設っていうのは、そこら中にあるものじゃないですよ。境港市にはなかったり、米子市が独自で持ってる施設ですよ。そういう中で、私の地元では話題にもなりません。淀江の議員さんもおられますけれども。それを議論してワークショップでやる中で、施設の充実ばかりに気を取られずに、私が言いたいのは、もっと広く今回のことを起点としてこういうことができますよと。もっと言えば、学校行事で市が、最近あまりマイクロバスの話はしたらいけないのかもしれませんが、子供たちを1回体験させる。そういう視点も持って協議していただきたいと思うんです。単純に期待することとか、求める機能だけでなく、どれぐらい利用されてるのかっていうのが、私の地元なんかでは、多分保護者の方が休みでない限り、または保護者の方がこういったいい施設だよってのを知らない限り、絶対に行かないと思うんですよ。だからこれを契機に、そういう視点での協議してもらわないと、湊山中学校区と後藤ヶ丘中学校区のために造つとるわけじゃないという視点を持って協議をしていただきたいですし、市としては、これを契機に、もっと広く宣伝をして、または子どもたちが行ける機会をどうするのかということも協議していただきたい。これは要望しておきます。

○松田委員長 矢田貝委員。

○矢田貝委員 駐車場が満杯になるぐらいに行事っていうのがあるわけですね。そうなった時には親子で来られていらっしゃる。で、子どもが来て、そこでいろんな体験活動をするっていうのも、さっきの話に戻るんですけども、幅広くいろんな行事が組まれすぎているというか、児童文化センターに期待するものが世代が広すぎる、社会教育の視点からしてもですね。なので今回のこの共創施設となるために、今の建物で持っていた機能を何を残していくのかということとをまず整理していただきたいというふうに重ねて強調しておきたいと思います。

○松田委員長 伊藤委員。

○伊藤委員 私、今、矢田貝委員が言われたように対象者の年齢っていうのを明確にして

いただきたいなって、児童文化センターは児童だから小学生、中学生ぐらいまでですかね。だけど、実際には子育て支援センターのように乳児や赤ちゃんを連れて行って多目的ホールでゆったりと過ごしてらっしゃるっていう方はすごく多いと思います。私の子育ての時はもう3、40年くらい前ですけども、その頃は児童文化センターの中にもジュニアリーダーを作ろうっていうような取組を何年も通じてやってらっしゃって、確かにジュニアリーダーがどんどん育成されてたなっていうふうに思っていますし、また、ボランティアセンター的にボランティアをやっていくっていうようなことも随分あったかなと思いますけど、最近はなかなかその意思みたいなのがあまり明確にはできてないのかなっていうふうに思っていました。先ほど皆さんの意見もございましたが、私たちの子育て支援の仲間という、晴れたら公園はどこでも行けるんだけど、雨が降ったら児童文化センター、とにかく児童文化センターに行くんだみたいな感じです。子どもが遊ぶところがないので。今、夏の暑さや冬の寒さなんかを考えると、とにかく児童文化センターに全天候型の施設ができれば、皆がそこに行くっていうふうに思うんですね。だから、それは皆が行ってしまうと駐車場がパンクしちゃだし、施設もそんなに大きくないので絶対に入れないみたいなことになってしまわないように、何か最初に整理をして考えていただくとありがたいなと思っています。いろいろな意見がありますけれども、私たちのメンバーだとか子ども食堂やそういうようなところで言えば、すごく期待が大きいです。なので、いろいろな子どもが、鳥取県で言えば遊びきる子ども、本当に遊びを夢中にやっていけるっていうようなことも合わせてやっていただくとありがたいなと思っています。以上です。

対象者が明確になってるかどうか、もう1回改めて聞きたいと思っています。

○松田委員長 矢野こども総本部次長。

○矢野こども総本部次長兼こども施設課長 対象者としては、議員がおっしゃるようなイメージで絞り込んでいる状況ではございません。そこも含めましていろいろご意見を伺いながら、今おっしゃったような視点は必要だと思っておりますので、検討してまいりたいと思います。

○松田委員長 他に意見等ございませんか。

門脇委員。

○門脇委員 今回ワークショップの報告が、第1回のワークショップですね、ありましたけど、この参加者10名っていうのは、予定というか、まず何名ぐらいを想定されていて、結局多かったのか少なかったのかっていうところをまずお聞かせください。

○松田委員長 矢野こども総本部次長。

○矢野こども総本部次長兼こども施設課長 当初20名定員で募集をかけまして、当日10名だったんですが、当日急遽行けませんというような方々もおられました。13名の応募があったということでございますが、3名は当日急遽欠席というようなことで展開しております。

○松田委員長 門脇委員。

○門脇委員 それを踏まえて第2回、先ほどから意見が出てますように、なるべく多くの方の意見を伺った方がいいにこしたことはありませんので、また同じように募集をかけたら同じような感じになってくると思うんですよね。ですから、次も20名ですかね募集。そういうこと決まってないですか。

○松田委員長 矢野こども総本部次長。

○矢野こども総本部次長兼こども施設課長 次回も20名でございます。

○松田委員長 門脇委員。

○門脇委員 ですから、なるべく20名定員でも少々超えるぐらいの人に来てもらって、やっぱり募集の方法も考えられて、なるべく多くの方から意見、アイデアとか伺えるような形にぜひともしてほしいと思いますので、そこはよろしく願いいたします。要望しておきます。

○松田委員長 他に意見等はございませんか。

吉岡委員。

○吉岡委員 この度の共創施設のコンセプト、科学を学ぶというところはとてもいいなと思っています。私も、子供の頃に医学部の学生さんとの交流を通して今の職業を決めた、理系進学を決めたというようなこともありますので、ぜひ理系人材を育てるという意味でも大変期待をしているところです。で、先ほどの門脇委員や渡辺委員のご意見に重ねて申し上げますと、やはり次の2回目のワークショップは、1回目に参加していない方も来られるということで、利用者だけでなく、納税者としての市民の意見をどう汲んでいくかということも施設の充実にとって大事なことではないかなと思います。で、1回目のワークショップについては、森田議員がインターネットで宣伝をしてくださったようなことがありましたが、やはり、当局としてやらないといけないのではないかなと思いますが、その辺りの広報の方法については具体的に考えておられますか。

○松田委員長 矢野こども総本部次長。

○矢野こども総本部次長兼こども施設課長 広報のやり方につきましては、資料に記載しているところ以上のところは今のところはないんですけれども、ただ、先ほど回答させていただいた内容にも結びつくところではあるんですが、やはり定員20名に達していませんので、そこはしっかりと考えてどういった形で広報ができるかっていうことも、期間は短いんですけれども、考えてやっていきたいと思っております。

○松田委員長 塚田こども総本部長。

○塚田こども総本部長 いろいろなご意見ありがとうございます。1回目のワークショップの周知が非常に期間が短かったですので、そういったところの反省も含めまして、あらゆる手法を使いまして、市民の皆様にお知らせをして、ご参加いただけるように考えていきたいと思っておりますし、メディアの方でも、取材のお話、ワークショップの紹介の話などもお声がかかってますので、そういったことも活用しながら、意見を伺っていきたいと思っております。

○松田委員長 吉岡委員。

○吉岡委員 室内の遊び場ということで非常に期待も高い事業かなと思います。秘書広報課の方もしっかり広報のスキルをブラッシュアップされているところですので、連携してやっていくことを要望するとともに、琴浦町では施設レビューの中で、まなびタウンの中の図書室のリニューアルに関して、無作為抽出された町民の方に議論をしていただいて、その後、そういったメンバーと共に先進地視察までされて構想を練るというようなこともされてきました。これの何が大事かと言うと、利用者でない市民の方にも自分事として考えていただくという意味で、巻き込んでいく、行政も巻き込まれていくということがこ

れから必要ではないかと思しますので、今今のことにはならないかもしれませんが、そういう視点も持っていただくといいなと思しますので、意見をします。以上です。

○**松田委員長** 他に意見等ございませんか。

岡田委員。

○**岡田委員** 鳥取大学との共創施設ということで、こういう米子市が集められたこの情報ってというのは、どこかで当然鳥取大学さんと情報共有ってのはされるんですよね。

○**松田委員長** 矢野こども総本部次長。

○**矢野こども総本部次長兼こども施設課長** 今回と次回のワークショップの結果は、鳥大さんとも共有いたしましたして、その結果も踏まえまして協議を進めていきたいと考えております。

○**松田委員長** 岡田委員。

○**岡田委員** 児童文化センター、非常に利用が多い施設だったと思うんですけど、この度の鳥取大学との共創施設ということでですので、さらに魅力のある施設にするために鳥大との共創施設ということにされたと思いますんで、先ほど渡辺委員からも意見がありましたけど、一部の近くの人たちだけじゃなくて、全市的に皆さんがこういう鳥取大学との共創施設としての児童文化センターを使っていたらいいように鳥大とも情報共有しながら、鳥取大学さんからもアイデアを出していただいでですね、ぜひ事業を進めていただけたらなということで、意見として申し上げておきます。

○**松田委員長** 他に意見等ございませんか。

又野委員。

○**又野委員** いくつか確認をさせてもらいます。先ほどのやり取りの中でワークショップ以外の手法による意見聴取で、夏休みの学習課題の中でっていうような話があったと思うんですけども、それは今後のスケジュール見ると7月に基本構想ってなっているんですけど、そこら辺は反映されるようになるのか、時期が重なってるような気がして。教えてください。

○**松田委員長** 矢野こども総本部次長。

○**矢野こども総本部次長兼こども施設課長** 確かにおっしゃるところはございまして、今実際に検討しているレベルと言いますか、夏休みというのも、まだ学校に話していない状況ですけど、一つの可能性としてそういう意見の聴取の仕方もあるんじゃないかというレベルでの内部の担当課と文化財団との協議のレベルですので、そのスケジュール、いただいた意見をどう構想にかましていくとかかですね、そういったところまで深掘りした議論ではございませんので、そのようなレベルの協議で申し訳ございません。

○**松田委員長** 又野委員。

○**又野委員** そうすると、例えば基本構想を策定した後、計画策定まで期間があるんですけども、その間にも様々な意見を聞くような機会を設けるとかっていうのがあると思ってもいいんでしょうか。

○**松田委員長** 矢野こども総本部次長。

○**矢野こども総本部次長兼こども施設課長** 現在の段階で明確に基本構想の策定から基本計画の策定までの間で、今回ワークショップのような意見聴取をするかどうかというところまではまだ決めていないのが実情でございます。ただ、やっていく中で、もし必要

があれば、そういったことも検討していくべきであるという具合には考えております。以上でございます。

○**松田委員長** 又野委員。

○**又野委員** ワークショップまではそうかもしれないですけども、ここで書いてあるワークショップ以外の手法とかって書いてあるので、構想策定以降も例えばこういう構想でっていうことを公表して、市民の皆さんから意見を求めるっていうことはした方がいいと思うんですけども。

○**松田委員長** 矢野こども総本部次長。

○**矢野こども総本部次長兼こども施設課長** 申し訳ありません、私がそういう場面を想像してなくて。パブリックコメントとかそういったことは、手続き上も当然やらないといけないと思っております。そういった形での意見聴取っていうのは、していきたいと考えております。

○**松田委員長** 又野委員。

○**又野委員** ワークショップ以外の手法による意見聴取で、アンケートフォームの開設であるんですけども、5月中旬からって書いてあるんですけども、もうこれは出来上がっているんですかね。

○**松田委員長** 矢野こども総本部次長。

○**矢野こども総本部次長兼こども施設課長** まだそこは完成していない状況でございます。

○**松田委員長** 又野委員。

○**又野委員** 中甸って書いてあるので、ほぼほぼ固まっているのかなと思ったんですけど、まだだったんですね。こういうアンケートとりますよっていうことの広報の仕方も、ホームページとか広報紙ぐらいに限られるんでしょうか、他に何か方法考えておられますか。

○**松田委員長** 山田こども施設課主任。

○**山田こども施設課子育て施設担当主任** 広報のことなんですが、ワークショップを実施させてもらう時の開催の広報もそうなんですが、今、市立の小・中学校にはスクリレという保護者さんに直接チラシが届くような連絡アプリみたいなものが導入されておりますので、そういったものも使って周知させてもらおうと思っております。ワークショップのチラシもさせていただきましたし、アンケートも実際やるとなれば、こういったアンケートを実施しますのでぜひご協力よろしくお願ひしますというのは、やらせてもらおうかなと考えているところです。

○**松田委員長** 又野委員。

○**又野委員** 確認ですけど、そうすると各小・中学校にも物理的にというか周知はされるっていうことですかね。

○**松田委員長** 山田こども施設課主任。

○**山田こども施設課子育て施設担当主任** 小・中学校というか小・中学校の保護者さんに直接通知を市から送るっていうイメージですね。

○**松田委員長** 又野委員。

○**又野委員** わかりました、ありがとうございます。ちなみに、児童文化センター自体に

アンケートをやりますとかっていうのは、どんな形で置いてあったりするのでしょうか。

○**松田委員長** 山田こども施設課主任。

○**山田こども施設課子育て施設担当主任** 児童文化センターにも当然あの掲示する形で置いたり、掲示もそうですしチラシで持って帰ってもらえるような形でも設置を検討しているところですよ。

○**松田委員長** 又野委員。

○**又野委員** 例えば、児童文化センターのところに電子申請だけじゃなくて同じようなものを紙で置いて、それに書いてもらったりっていうのもどうかなと思うんですけども。

○**松田委員長** 山田こども施設課主任。

○**山田こども施設課子育て施設担当主任** 皆様が電子でできるわけではないと思いますので、そういった柔軟な回答方法を検討しようと思っております。

○**松田委員長** 又野委員。

○**又野委員** ぜひともよろしく申し上げます。それと全体的に聞いていったところでの感想なんですけども、このワークショップに向けて周知期間が短かったとか、この構想までの期間が夏休みの学習課題でそこら辺がどうなるのかってというのが、まだこれからという話を聞くとスケジュールがタイトのような気がしまして。もうちょっと丁寧に皆さんに周知して意見聴取をした方がいいのではないかな。それで計画を進めていった方が、今後、もしその施設ができたなら何十年と市民のための施設ができるわけですので、できるだけいろんな方の納得がいくものにするためにも、もうちょっと慌てず、慌ててはおられないと思うんですけども、もうちょっと期間を置いた方がいいのかなと思いましたが、これは意見として言わせてもらいます。以上です。

○**松田委員長** 他に意見等ございませんか。

〔「なし」と声あり〕

○**松田委員長** ないようですので、本件については終了いたします。

以上で、民生教育委員会を閉会いたします。

**午前10時32分 閉会**

米子市議会委員会条例第29条第1項の規定により署名する。

民生教育委員長 松田真哉